

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔生花〕 （経営者）	・夏場は控えられる花のギフト関係の仕事ではあるが、今年の夏は例年ほど悪くはない。この傾向から、気候が良くなる2、3か月後は確実に良くなる。
		百貨店（営業担当）	・選挙や原油高、為替等いろいろなマイナス要因はあるが、それを払拭できるくらいの消費意欲が出てきている。
		百貨店（営業企画担当）	・企業の投資の拡大などで、景気はやや上向きで推移する。
		百貨店（売場担当）	・店の真横に秋口、市役所の出張所が完成することになった。そのことにより、人の流れが変われば来客数も増える。
		スーパー（総務担当）	・食料品はここ何か月か前年並みをクリアしている状況で、衣料品、住居用品も少しずつ上向き傾向になってきている。
		スーパー（企画担当）	・季節商材や催事イベントの更なる展開強化によって客の購買意欲をそそる取組をスタートさせており、その成果が少しずつ現れてきている。
		コンビニ（エリア担当）	・他のコンビニの出店が相次ぐため、売上ダウンも考えられるが、秋冬物商材であるおでん、肉まんの売上がアップしている。
		衣料品専門店（総務担当）	・婦人の高級品、着物、時計、宝石のブランド品の問い合わせが昨年より増えている。
		家電量販店（経営者）	・来年より地上デジタル放送の開始ということで、プラズマ、液晶といった薄型テレビや周辺のデジタル機器の購入が増えている。
		乗用車販売店（従業員）	・待望の新型車が10月に発表、発売になる。
		乗用車販売店（従業員）	・トラックの受注台数が増えてきている。
		都市型ホテル（総支配人）	・企業の進出などにより宿泊客は多くなる。
		旅行代理店（従業員）	・9月の予約が前年同期比118%となった。価格の高い夏休みを避けているのと、学生の利用が7月より9月の方が多くなった。海外旅行は燃油サーチャージとテロの影響で低迷している。
	タクシー運転手	・会社関係の取引が上向いている。また、会社関係の利用客が多くなっている。	
	通信会社（管理担当）	・単価は厳しいが、商談案件が途切れるような心配がない。	
	ゴルフ場（従業員）	・厳しい暑さから、6～8月の来場者が過去3年毎年落ちていっている。その反動で、9、10月の予約状況は昨年を1割くらい上回っている。	
	設計事務所（所長）	・過去に計画、企画した物件がそれぞれ少しずつ設計にかかれる状況になりつつあるので、景気は良くなる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・大手の製造業の下請もなく、個人消費のみであるので、なかなか景気は良くならない。消費者は税金関係、年金問題等、財布のひもを固く締めている状況である。
		商店街（代表者）	・幾分気候も良くなり、食欲が増してくる時期になるが、われわれの商圏内にはスーパー、デパートが多く、安売り合戦が始まっていく。
		百貨店（売場主任）	・昨年と比較すると、消費は堅調である。売上は前年比101～102%ぐらいで推移している。
百貨店（営業担当）		・ギフト購入に慎重さが見える。紳士服は好調に推移するが婦人服が今一歩である。好天により夏物バーゲンが好調となり、月末のギフト解体セールも好評であった。	
百貨店（営業担当）		・ここ数か月は順調に推移した売上も、9月は総選挙で百貨店売上は落ちる可能性があり、政局次第では景気の後退も予想され、しばらくは堅調ながらも横ばいが続く。	
百貨店（販売促進担当）		・売上は前年に追いついてきているが、前年を上回るのは難しい。	
百貨店（売場担当）		・現状では、来客数は前年比97.5%で推移しており、今月は同99.9%となり若干上向いている。しかし原油価格等が上がっており、原材料の価格の上昇が商品にどのような影響を及ぼすかが懸念材料として残る。	
スーパー（店長）		・盆過ぎから買上点数、単価の下落が続いている。来客数は落ちていないが先行き楽観はできない。	

スーパー（店長）	・競争店がオープンして半年くらいしか経っておらず、まだ回復状態にないため、2、3か月後も現状とほぼ変わらない厳しい数字が続く。	
スーパー（店長）	・衣料品の売上は好調であるが、食料品関係の点数が特に減っている。青果、生鮮、特に野菜関係の市場の相場が少し下がり気味である。	
スーパー（店長）	・秋物衣料も現況厳しい状況なので、現状と流れが変わらないトレンドで今後も推移していく。	
スーパー（店長）	・これまでは増床効果で前年比で客数は増加していたが、いよいよ来月から1周年になり、客数の増は見込めない。1周年セールも入るが、それが客数増につながるかは疑問である。	
スーパー（総務担当）	・原油高の状況が続いているので、この状態で行けば景気に影響が出てくる。	
コンビニ（販売促進担当）	・今年1～8月末まで前年比100%を超える月が一度も無かった。新商品は毎月出ており、フェア関係も実施しているが、なかなか前年を上回るほどの販売までは至らない。年末にかけてはクリスマス商戦があるが今の傾向から見るとこのまま横ばいである。	
家電量販店（店員）	・暑さが落ち着くと薄型液晶テレビやオープンレンジ、マッサージ機等に動きが出てくる。	
家電量販店（店員）	・9月に入ってパソコン関係の新製品が出てくる予定であったが、主だった動きがないので現状維持となる。	
家電量販店（企画担当）	・現在のところ、ボーナスも普通どおり出たということだんだん良くなってきており、このままの状態が続く。	
乗用車販売店（従業員）	・車両価格150万円以下の車が60%を占め、利益がなかなか上がらない。	
乗用車販売店（管理担当）	・モデルチェンジ等はあるが買い替え需要に結び付くかは分からない。	
乗用車販売店（販売担当）	・客との商談時間がかなり長くなっている。特に高額商品の購入にはかなり慎重な購買行動が見られるので、この先も当分変わらない。	
住関連専門店（経営者）	・秋に入るとプライダル家具の動きが出てくるが、置き家具の需要や回復はまだ程遠い。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・原油価格高騰に伴う、末端ユーザーへの転売も限界がある。これ以上ガソリンが高くなると、月間数百リッター使う需要家は、ハイブリッドへの乗り換えを検討するという話を多く聞く。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・石油類のメーカー仕入価格の値上がりりが止まらない。	
都市型ホテル（副支配人）	・予約の状況からすると団体、個人ともにそう変わらない。ただし石油の単価の影響が出る。	
テーマパーク（職員）	・例年同様今年も9～10月は個人旅行は落ち込みそうである。ただゴルフのベストシーズン到来するので秋から来年3月までは集客アップを狙う。さらにゴルフトーナメントもビッグネーム参戦があるので、セールスをかけていく。	
観光名所（職員）	・当社は観光施設、ゴルフ場がメインなので、これからのシーズンは売上の絶対額は上がるが、前年を上回るような好材料はない。	
設計事務所（所長）	・規模は小さいが仕事量としてはやや増えており、景気はやや良くなっている。	
設計事務所（代表取締役）	・建設関係では、公共事業の受注を改善させるような好条件は見当たらない。ただし福祉に関する民間の建設動向は、落ち着きが見られ、施設建設は発注が続いていることから、全体としては変わらないと判断される。	
住宅販売会社（従業員）	・諸資材等の値上げ等がじわじわと起きているが、今の状況では簡単には価格に転嫁できない厳しい状況である。	
住宅販売会社（従業員）	・今のところまだ金利が低いので、客としては計画自体をゆっくり考えようという状況である。消費税や金利関係の上昇が始まると住宅関連企業は景気が良くなる。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・市内にショッピングセンター、大型店、また、近隣の県にも同様のショッピングセンターができるということで、ますます市場が拡大し、客が分散していく。
	スーパー（経営者）	・近日大型ショッピングモールができるため、客の動向は変化する。価格競争が激しくなるため、利益面や集客の確保が難しくなってくる。

	スーパー（経理担当）	・一品単価・客単価ともにいまだ減少傾向にあり、さらに全国規模の企業のショッピングモールの出店計画が目白押しである。	
	高級レストラン（経営者）	・秋の旅行シーズンの予約が、昨年と比べてかなり悪い。	
	一般レストラン（スタッフ）	・盆や正月、ゴールデンウィークのような時には動きがあるが、それ以外の月の落ち込みが激しくなっている。10、11月の落ち込みが厳しい。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・他社の進出が始まってくるので、市場の奪い合いが厳しくなる。	
	タクシー運転手	・このところのガソリン価格の上昇によって財布のひもが固くなる。	
	通信会社（業務担当）	・買い替えを希望する客も、現在の商品ラインナップでは高価格商品が多く、購入まで結びつかない状況が当面続く。また、高付加価値の割に客からの問い合わせが少なくなっている。	
	ゴルフ場（スタッフ）	・大型コンペの受注組数を昨年と比べると伸びておらず、同じパイを近隣のゴルフ場と取り合っているだけで、その分単価も下がっている。今後も、新規の大型コンペの予約は見込めない。	
悪くなる	商店街（代表者）	・商店街の中でも空き店舗がまた増えてきている。買物を目的とした客が減少している。	
	百貨店（営業担当）	・大型ショッピングセンターの影響はますます強くなっていく。市内中心街の空き店舗も徐々に増えつつあり、シャッター通りの傾向がより強くなってきている。中心街への集客力の低下はこれからさらに拍車がかかる。	
	衣料品専門店（経営者）	・メーカー、問屋、商店街の人通りも少ない。	
	衣料品専門店（店長）	・客の消費意欲を全く見ることが出来ない。	
企業動向関連	良くなる	建設業（総務担当）	・ここ1、2か月のうちに、民間の大型工事が受注できそうである。見積案件も非常に増えてきた。ますます受注の機会が広がる。
	やや良くなる	家具製造業（従業員）	・原油の高騰や中国市場の好景気による需要の影響で家具の資材もかなり上昇している事が不安材料であるが、市場の動きとしては鈍っていない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・数ヶ月先に受注確定の大型案件が複数ある。
		鉄鋼業（経営者）	・原料であるスクラップ価格が反転し上昇している。これに伴い販売価格が底を打ち、安値が払拭される傾向にあり、年末にかけて動き出す建築需要を対象に、これから受注が増える。
		一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いについて、新しいユーザーが協力先を探しており、景気の先行きにやや明るさを感じる。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・仕事量はさらに増加するであろうが、消化しきれない状況である。
		建設業（従業員）	・見積件数の増加やマンションの販売等に着手するため、やや上向きになる。
		輸送業（従業員）	・前年同月実績を連続して上回っており、荷動きの拡大基調がはっきりしてきた。ただし、軽油代の値上がりりが深刻な問題になっている。
		金融業（営業担当）	・取引先で、製造業関係の受注量は安定して伸びつつある。また、小売業に関しては、家電等を中心に猛暑の影響もあって比較的好調に売れているため、今後も安定して景気は上向いていく。
		不動産業（従業員）	・開発用地・投資物件の物色が、中心部から地方へ広がりをみせている。また、案件の増加から不動産信託が順番待ちになるなど、不動産投資が過熱しており、当面この傾向は続く。
広告代理店（従業員）	・8月は年間を通してチラシの折り込み枚数が最も少ない月の1つだが、例年に比べてわずかながら伸びている。4月から5か月が経過したが、累計で現状維持かわずかながら伸びている。これは過去になかった傾向であり、景気の順調さがうかがわれる。ただし、業種による格差があり、パチンコなど娯楽サービス業は好調であるが、小売業はまだまだ不調である。		

変わらない	農林水産業（経営者）	・9、10月は年末需要に向けた製品作りで加工メーカーの引き合いも強いが、鳥インフルエンザの関連で輸入原料及び国内原料供給にも影響が出てきそうである。取引先の引き合いも強いが原料不足で工場での生産ができない状況になりそうである。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・夏場は陶磁器関係は落ち込む傾向にあり、その落ち込みは続いている。9月もあまり芳しい情報は聞かない。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・新規品が出たが、4～5型程度で先行き多忙になるというほどのことではない。湿り気程度の仕事量で相変わらず不透明である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・自動車100万台構想の体制が県全体で確立するには1年半くらいかかる。半導体は景気サイクルの谷間であり、良くなってくるといわれているが反面、コストが下がって二極化している企業も多々ある。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連全般の電子部品の在庫調整もやや進んできており、現状大手との動きが前に比べると非常にムラが少なくなったり、全般的な動きが出てきている。	
	精密機械器具製造業（経営者）	・現在の受注量、取引先の様子から大きく変わることはない。	
	金融業（得意先担当）	・大手製造業中心に景気は回復しているが、地方までまだ波及されていないというのが実状である。	
	経営コンサルタント	・半年位前と比べると現状は景気はかなり良くなってきている。ただこれが秋冬に向けて今後も一本調子で良くなるとは考えにくいので、現状維持がしばらく続く。	
やや悪くなる	繊維工業（営業担当）	・百貨店では売上が上がったという新聞や政府の情報があるが、それはあくまでも海外生産によるものであって、国内の工場では景気は上向いていない。	
	経営コンサルタント	・一般消費の伸びが見られない。	
悪くなる	農林水産業（従業者）	・ハウス栽培のコストで、大きなウエイトを占める重油の価格が、昨年比2割上昇（一昨年比5割上昇）したため、収益を大きく圧迫する要因となっている。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・先行受注は増えてきており、景況感が良い。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年、秋口の求人は活発である。特に最近では人手不足感があるので、お歳暮に向けての求人対策は早まる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人数が増加しており、地場も少しずつ上がってきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・来年3月の北九州空港の開港に向け、経済活動が活発になってくる。
		民間職業紹介機関（職員）	・以前は若手中心のオーダーがほとんどだったが、7月以降は中高年の求人が増加傾向にある。景気回復に伴い企業は設備投資に走り始め、同じスピードで人材の採用も活発になっていく。市場動向を考えると中高年求人は年末がピークである。
		民間職業紹介機関（支店長）	・景気の上昇機運が求人数、退職数に反映してきている。業界全体の伸び率も2けたを維持しており、年度下期に期待感が持てる。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・最近中心部の仕事よりも地方の仕事の方が多く、また求人の反応も、地方の仕事ほど良い。中高年の募集が多い。	
	求人情報誌製作会社（経営者）	・季節が秋に入るので積極的な販売促進が始まり、それなりに購買意欲が高まる。市内だけでも現在販売中やマンションの建設ラッシュが見られ、いずれの物件もそこそこ売れている。マイホームへの購入の関心度はまだまだ低金利の今がチャンスであり、低くない。日々の細々した消費を節約し大きな出費は計画を立て、望んでいるのが現在の傾向である。	
	職業安定所（職員）	・新規求職者が増加傾向にあること、また非正規雇用の求人が増加していることなどから安定した雇用が期待できない。	
	職業安定所（職員）	・公共料金の値上げ等、原油高の影響が少しずつ出てきている。企業もここまでが目いっぱいという状況まで追い詰められている。	
	職業安定所（職員）	・請負業者にかかわる求人はやや頭打ちの感があるが、派遣事業、パートタイム求人は引き続き増加している。求職者数の大多数が安定したフルタイム就労を希望していることから、見掛けほど雇用環境は改善していないという状況である。	
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・ガソリン等の価格上昇が企業の収益に影響を与える。	
悪くなる	-	-	